

見えないところで起きている？！ “夏型結露”に ご注意ください

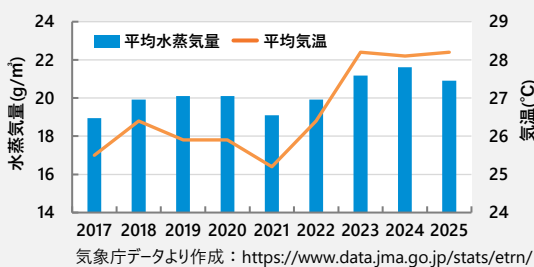
近年、地球温暖化の影響により、夏の平均気温が上昇しています。
それに伴い空気中の水蒸気量も増え、これまで少なかった「夏型結露」
が起こりやすくなっています。

本リーフレットでは、夏型結露の発生原因と、その対策となるエアコン
（快適エアー・エアラクス等含む）の上手な使い方をご紹介します。
夏にエアコン（快適エアー・エアラクス等含む）をご使用の際は、
ぜひ本リーフレットの内容を参考に対策を行ってください。



夏の平均気温と 水蒸気量は年々上昇・・・

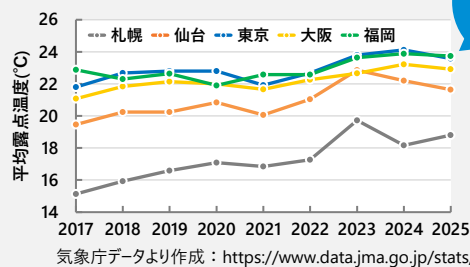
■夏の空気中の水蒸気量と平均気温(東京7～9月平均値)



その結果、露点温度*も 高くなっています。

※空気をこの温度より冷やすと結露する温度

■平均露点温度(7～9月平均値)



24°C
近くまで
上昇

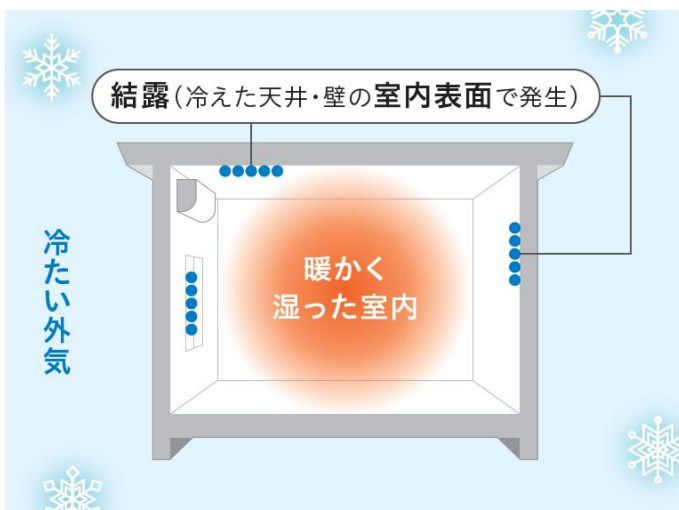
つまり、室温が
24°Cより低くなると
結露が発生する
可能性が！



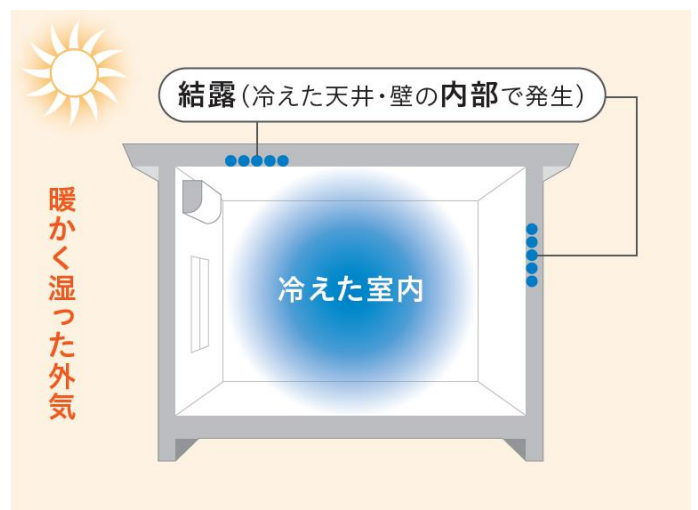
夏型結露とは？

冬に窓ガラスに発生する「冬型結露」とは異なり、夏に壁や天井の内部で起こる結露を「夏型結露」といいます。夏の高温・多湿の外気が壁や天井の裏側に入り込み、冷房で冷やされた部分に触れることで、見えない場所で水滴が生じてしまう現象です。

●冬型結露



●夏型結露



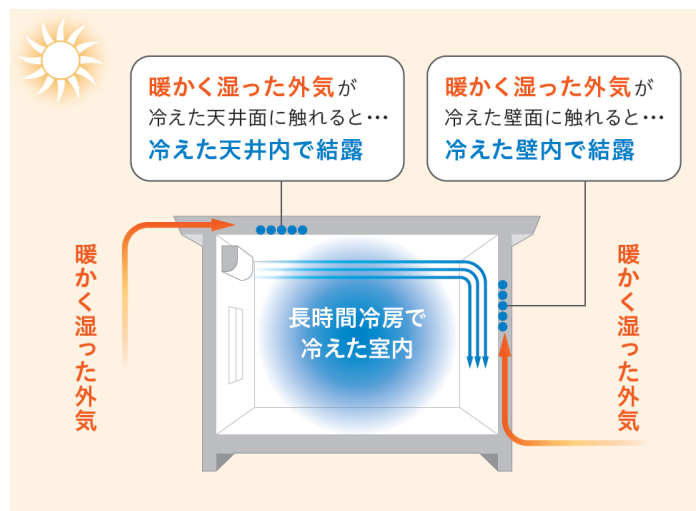
夏はそもそも湿気が多い…

夏型結露の主な原因は、**冷房の長時間運転**です。

近年の猛暑により、熱中症予防のために冷房を長時間使用されるご家庭が増えています。

冷房中、エアコン（快適エアー・エアラクス等を含む）から出る冷たい空気が壁や天井に当たり続けると、その部分の温度は室温よりもさらに低くなります。一方で、住宅の天井裏や壁裏は冬の結露防止のために外の空気を通る構造になっており※、夏場は高温多湿の外気が入り込むことがあります。その結果、高温多湿な外気が天井や壁の冷えた部分に触れ、そこで結露が発生してしまうのです。

※「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に基づく住宅性能表示制度の要求事項です。



夏型結露を防ぐための**3**つの対策

対策

1

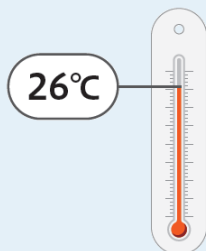
室温の目安は **26℃以上**

夏型結露を防ぐために大切なのは、**天井や壁を冷やしすぎない**ことです。夏の外気の露点温度※は24℃前後まで上がることがあり、天井面や壁面が24℃より低い温度になると結露が発生しやすくなります。

※ 空気をこの温度より冷やすと結露する温度

冷房の設定温度と実際の室温には差が出ることもあるため、**実際の室温を26℃以上**に保つよう心がけましょう。

※ 今後の気象環境の変化に伴い、目安室温も変わる可能性があります

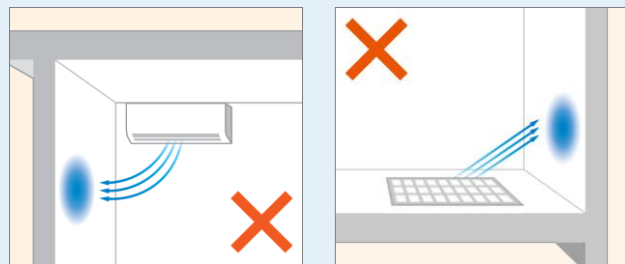


対策

2

冷房の風を 壁や天井に当てない

エアコン（快適エアー・エアラクス等含む）から吹き出す冷たい空気が長時間当たり続けると、天井や壁は室温よりもさらに低い温度になってしまいます。室温が26℃以上であっても、風が当たる場所はそれよりも低くなってしまう場合があるため、風向きを調整するようにしてください。



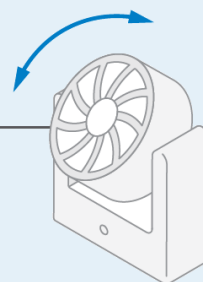
対策

3

サーキュレーターや扇風機で 空気を循環させる

冷房運転時にサーキュレーターや扇風機の首振り運転を併用すると、吹き出した空気が適度にかき混ぜられるため、天井や壁の一部が冷やし続けられることを防ぐことができます。また、扇風機やサーキュレーター風の体が当たることで体感温度が下がり、**室温がやや高めでも涼しさを感じやすくなる**ため、夏の結露対策としておすすめです。

首振り運転



夏の結露を予防し、大切な住まいにこれからも長く快適に住み続けましょう！